

第143回 街なか研究会

- テーマ** 日本橋人形町まち歩きと岡谷の銘酒神渡
- 日時** 令和4年5月1日(土) 15:00~17:00/17:00~19:00
- 案内** 林美貴氏 (mikibar)
- 会場** 日本橋人形町周辺
- 幹事** 木村晃郁
- 参加者** 芦崎哲雄、荒木克成、伊藤雅彦、今井晴彦、岩撫明、浮田千枝子、打林國雄、大熊久夫、木村晃郁、熊澤憲、小浪博英、高尾利文、高橋美江、高山登、中正人、堀田紘之、三橋重昭、矢口芽生(敬称略・五十音順)
- 集合** 人形町駅 A3 出口をでた地上
- 行程** 2.2km を 1 時間半ほどで
- ・芸者新道
 - ・末廣神社
 - ・甘酒横丁
 - ・濱田屋
 - ・玄治店
 - ・宝田恵比寿神社
 - ・小伝馬町牢獄跡
 - ・時の鐘
 - ・耕書堂跡
 - ・懇親会会場へ
- 懇親会** Mikibar/シェアキッチン「社員食堂」(アパホテル小伝馬町駅前の真向かい)
- ・17名分の会場セッティング
 - ・日本酒(四合瓶(神渡・豊香)を8本ほど)
 - ・ビール(サッポロ黒ラベル、キリン一番搾り)缶を18本
 - ・カップ、皿、箸、酒の器など
 - ・つまみ(きゅうり浅漬、筍煮、煎餅+人形町界限のもの)
- 会費** 500円(運営支援金)+1,500円(懇親会費)

行程図



= 2022/5/1 午後 15 時 人形町駅出 =

- ① **玄治店 (げんやだな)** : 当日間違えて「家康」といってしまいましたが、正しくは「三代将軍家光」の御典医だった玄治が拝領した場所に、いくつかの店 (たな) を建てて貸していたので、このように呼ばれています。ちなみにその立て看板の後ろに建っていた読売さんのビルの場所には、1970 年まで人形町末廣 (寄席) がありました。
- ② **芸者新道 (げいしゃじんみち)** : 芳町 (よしちょう) 芸者の花柳小菊さんの居宅がいまは「よし菊」という料亭に。脇にあったのは大観音寺 (おおがんのんじ) です。道を挟んだ対面には、大正時代から続く日山 (ひやま) の古い建物。
- ③ **「は組」のからくり時計** : 江戸時代の火消し組で人形町を担当したのは「は組」でした。からくり時計は 11-19 時までの各ジャストの時間からくり人形が動きます。
- ④ **甘酒横丁** : TV ドラマ「新参者」で一気に人気が出た通りですが、もとは尾張屋という甘酒屋があったのでこの名になっています。通りには昔ながらのつづら屋、ばち屋などもあります。この通りにある新川屋佐々木酒店さんは祖父の代あたりからの付き合いで神渡・豊香なども扱って下さっています。
- ⑤ **今半を抜け看板建築多し** : 人形町も御多分に漏れず東京大空襲 (S20/3/1) の被害を受けましたが、奇跡的に残っている建築も処々にみられます。
- ⑥ **浜町堀跡** : 元吉原があった (1617-1657 : 明暦の大火まで) 時代の東端の堀の跡です。

- ⑦**末廣神社**：元吉原時代からの氏神、この界隈の総鎮守。戦災で建物は立て替えられましたが、日本橋七福神の1つになっています。こちらには勝運の神毘沙門天が。この日(5/1)はちょうどその毘沙門天さまが公開されていました。
- ⑧**濱田屋**：この界隈で唯一残る花街の時代を物語る料亭。川上音二郎の妻、貞奴もこの料亭に。また、この建物も玄治店です。
- ⑨**三光稲荷**：探し猫にはこの稲荷、お供えされていた招き猫は猫が戻ってきた主からのものです。
- ⑩**梨園染**：明治初期にはじまる注染（ちゅせん）の染問屋さんです。
- ⑪**旧川崎貯蓄銀行富沢町支店（現在のハリオグラス本社）**：昭和7年の建物、コリント式の柱が荘厳です。
- ⑫**大門通り**：皆さんが主に歩かれた通りは、元吉原の大門へ続く通りでした。
- ⑬**諫鼓鶏を冠する御神輿**：大伝馬町のシンボルである諫鼓鶏（かんこどり）を冠する御神輿は通常べったら市（10/19&20）でみることができます。また山王祭にも（別の神輿ですが）登場します。
- ⑭**宝田恵比寿神社**：家康がこの地への移転と伝馬役を立派に果たした馬込勘解由（まごめかげゆ）に下賜した恵比寿像（伝 運慶作）がまつられています。
- ⑮**時の鐘**：もとは石町(日本橋本石町)にあった時の鐘の実物。
- ⑯**伝馬町牢獄跡**：横にある建物（十思スクエア別館）は開館していれば内部見学可能（無料）で牢獄のジオラマや、今も地下に残る木樋がみられます。
- ⑰**吉田松陰句碑**：当日は雨でよく見えませんでした。ここで処刑された松陰の辞世の句が書かれていました。「身はたとひ武蔵の野辺に朽ちぬとも留め置かまし大和魂」
- ⑱**広重の絵**：さわやか信金の壁面に大きく貼られていたのが、「東都大伝馬街繁栄之図」。このあたりの往時の賑わいを感じられます。太物問屋が立ち並び、奥には富士山もみえました。
- ⑲**耕書堂（こうしょどう）跡**：ここは木村さんにご説明いただいたかとおもいますが、「吉原細見（遊郭のガイドブック的なもの）」の販売権を取得し大成功をおさめた蔦屋重三郎の書店のあった場所です。
- そして**：懇親会会場のある Creative Hub 131 のビルへ。

参加者の感想

小浪博英

「粋な黒塀見越しの松に・・・」で知られる玄冶店濱田家（げんやだなはまだや）が人形町駅のそばにあった。今でも料亭を営業しており、芸者も数人抱えているとのことでしたが、料金は決して安くはないので、とりあえず宝くじを買うことにした。

岩撫明

銘酒「神渡」に誘われて、「人形町まち歩き」に参加。住まいの押上から地下鉄で10分の距離でもあり、司波さんの追悼飲み会以来の参加だ。当日の冷雨の中、案内人の林さんのサービス精神と「神渡」に感謝。そして皆さんの、自製のきいた言いたい放題、楽しかったね。

今井晴彦

ビルしかなく、しかも碁盤目状に整然とした街区のまちで、このあたりはいつも方向感覚がなくなり、道に迷う鬼門の地である。しかし今回は林さんのじつに丁寧なご案内で、そのなかに江戸の遺産があちこちにひっそりと残ったり、土地に沁み込んでいたりすることがわかって、雨にもかかわらず面白く歩くことができた。

熊澤憲

江戸の町に時を告げていた石町の「時の鐘」を見た。当時、町人一軒から鐘撞き料として月四文を徴収していたという。落語「時そば」ではそばは十六文なので、鐘撞き料四か月分でそば一杯となるが、高かったのか安かったのか。

三橋重昭

コース設定、名所案内、懇親会場設営、飲食準備とサービス全て諏訪出身の林美貴さんがしてくれた。林さんの実家で造られる「神渡」の魅力も大。半年前の出会いからお願いし実現。旧吉原遊郭の面影が路地に残る。参加者の世界が広がった。

荒木克成

人形町は、前職百貨店時代には何度も何度も足を運んだ思い出深い町です。今半、魚久、玉ひで、芳味亭、キラクとランチや夕飯に日本橋からもよく遠征しました。残念ながら、当時から濱田屋を存じなく、当然、ご相伴にあずかることもありませんでした。また、その周辺が遊郭であったことなど話題になった記憶もありません。逆に象徴的なのが、打ち上げの場となったナビゲータ林美貴さんのベース事務所辺りはソ



ーシャルビジネスを中心にしたスタートアップ企業の宝庫であり、老舗繊維問屋街からも幾多の人気アパレルブランドを輩出しているのです。人形町は、新旧が入り混じった未来遺産の聖地だと思わずにおられません。

伊藤雅彦

小伝馬町に数年勤務していたので、ある程度祭事歴史等は知っているつもりでしたが初めて紹介された遺物あり、改めて集積された歴史を体感できました。雨中での街歩きでやや辛いものがありましたでしたが逆に街中の賑をみているようで面白かったです。カモメの鳴き声に気づき海を連想できたこともよかったです。

高尾利文

路地探検で最初に気になったのは、街なかには響き渡るミャーミャーという鳴き声。その主はウミネコ。地図をみたら神田川や隅田川、日本橋川、亀島川に近い。雨でなければ、潮の香を嗅ぐことができたかもしれない。案内人の林美貴さんは傘もささず、その話は丁寧でわかりやすかった。Mikibarでの懇親会あと、やきとりセンターで二次会。そこで美貴さんを新宿五丁目の街歩きに誘う約束をした。悔やまれるのは、末廣神社でカメラを落とし以降撮影不能となったこと

堀田紘之

歩いた距離は大したことなかったが、元吉原、小伝馬町牢屋敷、玄治店と江戸の匂いが豊富な地区であった。この辺は何回か来たことあるが何も気づかなかった所、林さんの名ガイドに感謝である。歴史の色の濃い街歩きの良さを改めて感じた。また今半、玉秀と食いしん坊の涎を誘う地区でもあった。

矢口芽生

人形町は全く縁がない場所でしたが、美貴さんのご案内のおかげで町の歴史や面白さ等を知ることができました。そして、今回初めての参加でしたが、皆さん仲良くしてください、とても楽しかったです。また参加させていただきます。

木村晃郁

人形町は、2年間出向していた住宅都市整備公団・都市基盤整備公団（現都市再生機構）土地有効利用事業本部時代の担当エリアであった。バブル期の地上げによる虫食い土地を成形な土地にして、日本経済復興



の起爆剤にするこの事業、言い換えれば、地上がらなかった土地の公的団体による地上げ事業である。そのため、空き地や空き家を探してくまなく旧日本橋区を歩いたものだ。このエリアは、旧芳町（旧吉原）であり、今も芸者さんが行き交うまちであるとともに、今半や魚久、玉秀など老舗が建ち並ぶ。また、桃屋やギンビス、カゴメ（東京本社）、あけぼの、山万などの本社が立地するビジネス街でもある。その中で、芸者新道と呼ばれる大観音寺脇の路地は、沿道の飲食店による緑豊かな園芸と、和食飲食店としての外観のしつらえが見事にマッチして、降っている雨と相まってしっとりとした情景を生み出している。この路地はさらに道路をまたいで2つの街区を貫いている。人形町地区には、街区の背割り路地があちこちに見られるが、ここまでしつらえられた路地はない。

